

夢アイデア企画書

アイデア

都市住民による水源林環境保全への整備協働の試み

背景

近年東北地方など日本の北部で水源のある広大な森が中国資本に買収されている報道がなされ、一時的に水源への関心が高まったように思えたが最近は下火になっている。

こうした出来事に関わらず、水源がはるか遠くにあることにより、都市住民の側に飲み水の大切さが軽んじられていないか。周知のように蛇口をひねれば出てくるもの、その水は常に安全安心なものであると信じられ過ぎている実態がある。

二酸化炭素やプラスチックごみの過剰な排出の削減が叫ばれ、遅ればせながら地球環境保全への取り組みが本格的に実施されはじめている今こそ、休まず遅れず、飲み水の健全で恒常的な保全への意識高揚を図るべきと思う。言ってみれば、空気や海という環境保全に加え、飲み水の保全へ向けた環境保全への具体的取り組み、水源林大切への啓蒙のスタートラインに立つということになる。

方法

人口は都市に集まっているが水源は遠く川の上流部にあるのが常だし、その上流部の水源林を都市自治体が保全し整備を図っているケースが我が国には多い。それが都市住民の水源林への無関心と呼ぶことになる。

そこで上流部の水源林の一部を幾つかに区分けし、それらのひとつずつの整備を民間に任せる方式を取るということである。企業や公共的団体が主たる対象であるが、綺麗な水が注がれる事が必要な海を生業にしている漁業者や加工業者、漁業組合、市場なども対象になる。

年間契約を結んで整備の仕方、回数、指導者の派遣などの約束をすることになる。民間業者にはこの整備に当たっていることのPRを許し、契約金が必要なこと等を条件にする。

一方で、一般市民へは行政あるいは行政から委託を受けた三セクや市民団体が音頭をとり、住民を募って水源林へ移送し助言しながら水源林整備に当たると言うものである。もちろん参加料を徴収し、整備機器の準備費やバスの借り上げ費などに充当するというものになる。

効果

「飲水資源」の言葉があるが、飲み水への意識が高まり、大切にしようとの意識醸成につながり、全国的展開へのきっかけにもなる。

都市住民と水源林所在地域住民との交流の場になる。

水源林整備そのものが着実に実施され、水量の確保やおいしい水の確保につながるメリットがある。